

註 (1) 『日本地誌』第19卷九州地方総論・福岡県

(二宮書店 昭和四十九年)

(2) 『津久見柑橋史』(津久見柑橋史刊行会 昭和十八年)

(3) 豊田寛三「近世臼杵の町と村」(『臼杵市史』上巻 臼杵市 平成二年)

(4) 兼子俊一『大分県の地理』(光文館 昭和三十七年)

(5) 杉尾良也『宮崎海岸平野の開発』(九州高等学校地理教育研究会第一回大分大会発表資料 昭和五十四年)

(6) 矢野彌生「海部地域」(『大分の歴史』第10巻 大分合同新聞社 昭和五十四年)

(7) 矢野彌生「古い栽培歴をもつ津久見ミカン」(『大分県史』地誌篇 大分県 平成元年)

(8) 土井仙吉「以西漁業の変遷」(『九州地方』新日本地誌ゼミナール7 大明堂 昭和六十年)

(9) 『津久見市誌』(津久見市 昭和六十年)

(10) 丹羽真知子「保戸島の遠洋漁業」(『大分県地理』12集 大分県地理学会 昭和三十七年)

(11) 矢野彌生「津久見湾の漁業」(『大分県史』地誌篇 大分県 平成元年)

(12) (8)に同じ

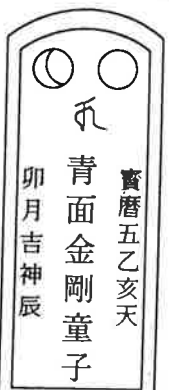
表紙解説

『庚申塔鶏図』

柏江の速川神社下の道路端に宝暦五年に建てられた立派な庚申塔がある。お為半蔵の心中事件が起こって六年目、お為の父龍正院の名が見える。庚申塔には人の延命招福が祈願される。日本では鶏は古代から家禽として鳥の中でも最も親しまれてきた。吉凶を占い、時を知らせ、一番鶏が鳴いて鬼を退散させるなどの話がある。酉年にちなんで……。

さとう たくみ

一・二五米



講衆	龍正院
直右衛門	白閑
利平太	喜右衛門
吉郎兵衛	助七
字兵衛	平三郎
傳十郎	惣八
利平次	彌右衛門
喜平治	藤兵衛